

教科【商業】

単元名 表計算ソフトウェアの活用	[指導項目] ア オペレーション・リサーチ イ 情報の集計と分析 ウ 手続の自動化
-------------------------	--

1 単元の目標

(1) 表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につける。 (2) 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、判断できる力を身につける。 (3) 表計算ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的に取り組む態度を養う。

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表計算ソフトウェアの特徴と活用方法を理解するとともに、関連する技術を身につけている。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、情報を集計・分析して適切に表現している。	表計算ソフトウェアの特徴と活用方法について自ら学び、効果的な活用に粘り強く取り組んでいる。

3 指導の評価の計画（10時間）

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次 （4時間）	1 情報の集計 表計算ソフトウェアの特徴を理解する ・関数を利用した集計・分析の手法を学習する。	知	○	・表計算ソフトウェアの特徴と活用方法を理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ワークシート
第二次 （2時間）	2 情報の分析 表計算ソフトを用いた情報の分析方法を理解する ・多様なグラフを用いて表現する手法を学習する。	思	○	・表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、表現している。 ワークシート

第三次 (4時間)	3 情報の集計・分析の活用① 多様なデータを目的に応じて集計・分析して適切に表現する ・情報の集計・分析で学んだことを活かし膨大なデータを表現したい形に集計、分析する。	態	・表計算ソフトウェアの特徴と活用方法について自ら学び、効果的な活用に粘り強く取り組んでいる。 観察
	4 情報の集計・分析の活用② 多様なデータを目的に応じて複雑の条件により集計・分析して適切に表現する ・情報の集計・分析で学んだことを活かし膨大なデータを表現したい形に集計、分析する。	思	○ ・表計算ソフトウェアの特徴と活用方法に基づいて、情報を集計・分析して適切な表現を判断している。 ワークシート

4 観点別学習状況の評価の進め方

観点：【主体的に学習に取り組む態度】

(1) 評価の進め方（授業の流れを含む）

ソフトウェア活用の本単元である「表計算ソフトウェアの活用」では、表計算ソフトウェアの「知識・技術」を身につけさせると共に、自ら思考・判断しながら表計算ソフトウェアを活用していくため、主体的に学習に取り組むことができる。

主体的に学習に取り組む態度は、積極的に課題を進める中で自ら問題を発見し解決に向けて粘り強く、また課題を進めるなかで見つけた様々な問題解決方法を試すことで自らの学習を調整していることで評価する。

(2) 評価の実施事例

ア 実施事例の概要

提供データから、「曜日を基準とした表」「時間を基準とした表」のそれぞれの表を作成できるよう取り組んでいるかを評価する。また、集計がうまくできない場合や意図したグラフを作成できなかった場合、粘り強く取り組み、必要に応じて質問や前時の内容の振り返りができているかを評価規準とする。

イ 評価規準

評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
主体的に学習に取り組む態度	提供データからそれぞれ基準となる内容を踏まえ、意図した表とグラフを作成することができる。	提供データからそれぞれ基準となる内容を踏まえ、意図した表とグラフを作成することができ、作成したグラフがなぜ適切だと考えたのかを論理的に説明することができる。	提供データからそれぞれ基準となる内容を踏まえ、意図した表又はグラフを作成することができない。 【手立て】机間指導で前時の内容振り返らせるなどして気づかせる。

ウ 評価の考え方

○「おおむね満足できる」状況（B 評価）

提供データから「曜日を基準とした表」「時間を基準とした表」とグラフ（種類は問わない）が作成できていれば B 評価が得られるように位置付ける。前時までの学習において SUMIFS などの集計用の関数の使い方は解説している。また配布プリントには完成した表（見本）を提示してきた。本時の配布プリントには、完成した表（見本）を提示しない。そのため学んだことを活用してデータから意図した表を作成できていれば B 評価とする。

○「十分満足できる」状況（A 評価）

提供データから「曜日を基準とした表」「時間を基準とした表」とグラフが作成できていることかつ、作成したグラフを選んだ理由を感覚的ではなく、論理的に説明することができれば A 評価とする。

○「努力を要する」状況（C 評価）

提供データから「曜日を基準とした表」「時間を基準とした表」とグラフが作成できおらず、前時までに学習した集計用の関数の使い方やグラフの作成方法などを確かめずに取り組んでいる場合、自身の学習を調整できていないため C 評価とする。